

科目	地理探究	学年	第3学年	開講	通年	必修	3 単位
----	------	----	------	----	----	----	------

学習目標	現代世界の諸課題を地球的視野でとらえ、持続可能な社会の在り方について探究する力を身につけていく。諸地域の歴史的背景を踏まえながら系統地理的な認識を養うとともに、地域的な枠組みから世界の諸地域を地誌的に考察し、国際社会に主体的に生きる人としての自覚と資質を養う。
------	--

教科書： 帝国書院 「新詳地理探究」「新詳高等地図」(1年より継続)

副教材： 帝国書院 「新詳地理資料COMPLETE」(1年より継続) 「新詳地理探究演習ノート」

<学習計画及び評価方法>

- a 知識技能
- b 思考・判断・表現
- c 主体的に学習に取り組む態度

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考查	評価の観点		
							a	b	c
前期	現代世界の系統地理的考察	自然環境	世界の地形	・世界の地形について、その成分や地形の分布などを考察すると共に、人間の生活との関わりを考察する。	4		○	○	
			世界の気候	・地域ごとの違いについてその要因と気候区分と人間生活の関わりを理解する。			○	○	
			日本の自然環境	・世界・日本の環境問題についてその背景や影響を多面的に考察する。			○	○	
			地球環境問題				○	○	
		資源と産業	世界の農林水産業	・世界の農林水産業について、自然条件や社会条件を関連つけて、地域区分と共に捉える。	6	中間	○	○	
			食料問題	・食糧問題について、先進国と発展途上国を比較し、その問題点の解決方法を考察する。			○	○	
			世界のエネルギー・鉱山資源	・世界のエネルギー・鉱山資源についてそれぞれの種類や分布地域などを理解する。			○	○	
			資源・エネルギー問題	・世界と日本のエネルギー問題について、その原因と今後の動向を考察する。			○	○	
			世界の工業	・世界の工業について、発達過程や種類、立地などの現状と課題を考察する。			○	○	
			第3次産業	・世界と日本のエネルギー問題について、その原因と今後の動向を考察する。			○	○	
		交通・通信と観光、貿易	交通・通信	・世界を結ぶ交通・通信について、交通機関の特徴や種類を捉えると共に、世界を結ぶ交通とその格差を理解する。	7		○	○	
			観光	・進展する現代の世界貿易と国際分業についてや、日本の貿易について考察する。			○	○	
			貿易と経済圏				○	○	
		人口・村落・都市	世界の人口	・世界の人口についてその分布の特徴や人口構成、人口転換について理解する。	8		○	○	
			人口問題	・人口問題について、発展途上国と先進国を比較し、それぞれの要因と対策を考察する。			○	○	
村落と都市	・日本の人口問題の課題と、その解決のための取り組みについて考察する。		○	○					
都市・居住問題			○	○					
生活文化、民族、宗教	衣食住	・世界の衣食住について、その特徴と地域格差を理解する。また、世界の衣食住の画一化にも着目し、今後の変化を考察する。	9	期末	○	○			
	民族・宗教と民族問題	・民族と言語、宗教の分布や特徴を理解し、生活との関わりを考察する。			○	○			
	国家の領域と領土問題	・現代国家の考え方や国家間の課題を考察する。			○	○			
前期 授業評価							○	○	○
後期	現代世界の地誌的考察	現代世界の地域区分と諸地域現代世界におけるこれからの日本の国土像	東アジア	・歴史的背景と関連づけて考察する。	10		○	○	○
			東南アジア	・国・地域ごとの地域区分とそれぞれの特徴について理解する。			○	○	○
			南アジア	・それぞれの国の地域区分に基づき、自然環境や工業、農業などの項目ごとに比較し考察する。			○	○	○
			西アジアと中央アジア	・各国の日本との結びつきを考察し、地域特色への理解を深める。			○	○	○
			北アフリカとサハラ以南のアフリカ	・宗教と生活の関わりや文化的な取り組みについて考察する。			○	○	○
			ヨーロッパ				○	○	○
			ロシア				○	○	○
			アメリカ合衆国				○	○	○
			ラテンアメリカ				○	○	○
			オセアニア				○	○	○
			将来の国土の在り方	・現代の日本が抱える地理的な諸課題について多面的・多角的に考察し、その解決の方向性や日本の将来像について考察する。			1	学年末	○
持続可能な日本の国土像の探究		○	○	○					
後期 授業評価							○	○	○

評価の観点	現代世界の地理的事象を地誌的に考察し、諸地域の歴史的背景を踏まえながら系統地理的認識を養うことができたか。
評価方法	<評価算出方法> 各観点100点満点で算出する。 ○知識・技能 : 定期考査(70%) + 小テスト、重要語句の確認、資料集・地図帳・統計資料での確に調べ学習ができることなど(30%) ○思考・判断・表現 : 定期考査(60%) + レポート、プレゼン力(発表力、表現力)など(40%) ○主体的に学習に取り組む態度 : 平素の授業態度、提出物、出席率、ノート、発言、忘れ物、授業準備など(100%)